

# 知恵の樹

No. 174 2013. 3. 27

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 町田市立図書館事業計画（案）を公表して・・・

町田市立図書館長 尾留川 朗

### 事業計画

今回の図書館事業計画は、まとまった形の計画としては、おそらく町田市立図書館で初めてのものだと思います。また、このことは、図書館に限ったことではありません。実は行政は、毎年ほぼ同じ活動を行う事業（これを「経常事業」といいます）は、予算は計上しますが、法や条例に策定を義務付けられている計画を除き、計画書としてまとめることはほとんど行っていないのです。そこで、図書館評価もしっかり行っている(?)町田市立図書館としては内外の関係者と目標や活動内容を共有するために計画も作ることにしました。

### ◇ 変な計画？

また、この計画は、事業計画と称しているのに、重点事業を除き、事業内容の説明や事業に必要な人、物、金など(資源)を記述していません。そのうえ、事業を計画するに当たって対象となる範囲(守備範囲)についての記述もない、事業として不完全な計画になっています。

それは、ひとつには、この計画は、新しい図書館運営の理念と目標(「図書館協議会」答申)を達成するためのものであり、そのためには、達成目標をしっかりと持つことが欠かせない一方で、目標達成の手段である事業は、計画策定段階で資源や守備範囲を固定せず、事業実施段階で一層の創意工夫により実施し、事業評価を経て決定していくことが望ましいこと。ふたつめには、事前に資源と守備範囲を限定してしまうと、事業実施時に目標達

成のための最適な手段であるかの確認がおろそかになることや、創意工夫意欲が削がれることなどを防ぐ必要があること。などの理由からです。

### ◇ 誰もがわかっていることだから書かない？

一方で、図書館運営理念と目標を達成するための施策は、体系化し、細かく記述しています。施策を見てみると、わかりきったことがらが多く表現されていることに気づきます。しかしそのことがら一つひとつに、個人情報保護、バリアフリーやユニバーサルデザイン、図書館施設や空間整備の基本など、わかっているけど言葉としてしっかりと抑えておかなければならないものだからこそ此処に記録しておくのです。

### ◇ 計画は共通理解のツール

図書館はどう考えて事業を進めるのか。自分達の意見や要求はどうやって受け止めるのか。

計画は様々な考えの方々が共通理解を深めるためのツールです。始まりは隔たっていても、意見を交わしていく中で相互理解は深まっていきます。そうして合意形成ができ、その合意と計画にズレがあるのならば、実施の節目ごとに変えればいいと考えています。

これまででも、これからも、図書館に関わる人は変わっていきます。だからこそ、共有した目標が書かれた文書としての計画を持つことが重要なのです。

# どの本読もうかな ～2012年 児童書新刊から～

講師 広瀬恒子さん (親子読書地域文庫全国連絡会・伊)

2013年3月10日(日)14:00～16:30

於:町田市立中央図書館 6F ホール

参加者 48名(市内36名・他12名)

司会:山口 洋

恒例になったこの講座も、20回を超えました。町田だけでなく遠く埼玉や横浜・都区区内からも参加して下さい、予定を30分近くオーバーの会でしたが、皆さん最後まで席を立たず大満足で帰られました。この日紹介して下さいた本は、絵本15冊、読みもの17冊で、4冊を除いて(貸し出し中)全て中央図書館児童担当者がお忙しい中用意してくれました。この場を借りてお礼申し上げます。

講座の全容をかいつまんでご報告します。(増山)

## ◇子どもの読書活動調査から

はじめに、子どもにとって読書がいかに大切か、それが生きる力になる、ということは良く知られていることだが、そうしたことを研究的に裏付けるための全国調査「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究の報告」(国立青少年教育振興機構)が行われた、としてその一部について触れられた。

これは、20代から60代の人を対象に実施されるもので、それによると、子ども時代に読書を多くした人ほど人生を前向きにとらえているという報告で、就学前から中学時代までに読書活動が多い高校生・中学生は、読書量の少ない子どもに比べて、自分の事が好き、何でも最後までやり遂げたい、生活に満足している、と子どもの頃の読書活動がその後の人生に良い影響を及ぼしているという調査結果である。

「未来志向」が強く、「社会性」「意欲・関心」「文化的作法・教養」「市民性」「論理的思考」のすべてにおいて、現在の意識・能力が高いという。

特に就学前から小学低学年までの「家族から昔話を聞いたこと」「本や絵本の読み聞かせをしてもらったこと」「絵本を読んでいたこと」といった読書活動は、現在における「社会性」や「文化的作法・教養」との関係があるということを裏付けた報告書だった。

学術的研究の資料として報告されたということで、このことが、大人の側の教育的観点からのみ読書を捉えようとする、首根っこ捕まえてでもお話を聞かせなければということになり、子どもにとってはマイナスに働く場合もあるだろう。今後この報告書を、子ども自身にとってより良い形でどうフォローしていくかということも問われてくるのではと話され、

子どもの自由な読書を保障していくことが益々重要性であることを話された。

## ◇子どもの本に関わる話題から

昨年は新美南吉の歿後100年ということで、展覧会が多く持たれた。『ごんぎつね』は、教科書に載ったということもあるが6000万人の子どもに読まれている。ハッピーエンドではないが、人間の持つ不条理の世界が描かれており、古典的価値から100年も読み継がれているのだろう。

また、岩波書店が創業100年を迎えて出した「読者が選ぶこの1冊」から、岩波文庫⇒1.こころ(夏目漱石)、2.君たちはどう生きるか(吉野源三郎)、3.銀の匙(中勘助)／少年文庫⇒1.モモ(エンデ)、2.星の王子さま(サン・テグジュベリ)、3.ライオンと魔女(ナルニア国物語)という結果が出た。

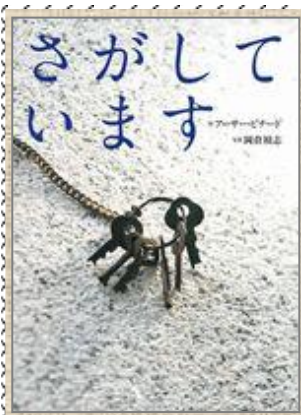
今でもこうした作品が共感されるというのは、やはり古典的価値があるからだろう。

50周年を迎えた本に『ぐりとぐら』(中川梨枝子)と、200万部のミリオンセラーになった『おいしいのぼうけん』(古田足日)がある。時代を超えても伝わっていくのは、子どもの心を捉えている作品だからなのだろう。

また、おまけつきということもあって1970年代102万部も出ていた「小学3年生」は、最近では5,6万部にまで減り、「小学4年生」とともに昨年休刊になった。学年別、男女共通、という本が今の専門性を要求する子どもたちのニーズに合わなかったのではないか。子どもの立場から言うと、小学生の漫画というのは作り難くなっている。

その中で『はだしのゲン わたしの遺書』を残して昨年亡くなった中沢啓治氏の『はだしのゲン』は、大勢の子どもたちに手に取られた。原爆の恐ろしさが描かれているが、逆境に生きるという成長物語としても読まれている。

日本の歴史を振り返った時、児童文学に業績があった鳥越信氏も昨年亡くなった。



### ◇こどもの本の現状

2012年に発行された児童本の総点数(マンガ・学習本は入っていない)は2812点【絵本1023点(36.4%)、文学630点(22.4%)】で、内容的に即物的、素材に依拠する作品(たべもの、仕事、職業など)が目立った。その中でも、絵本・タブロー的作品に力作があったとして、

広島の被爆を取り上げた『さがしています』(アーサー・ピナード【作】/岡倉 禎志【写真】/童心社)、『新世界へ』(あべ弘士【作】/偕成社)、既に15刷になっている『あさになったのでまどをあけますよ』(荒井良二【作】/偕成社)、様々な富士山の姿を描いた『富士山うたごよみ』(俵万智【短歌・文】/U.G.サトー【絵】/福音館書店)、を紹介。

昔話を絵本化するというのは難しいが、その国の特色を出した本ということで、

瓢箪から生まれた女が主人公の万里の長城が築かれるまでの悲しい物語『なみだでくずれた万里の長城』(唐 亜明【文】/蔡皋【絵】/岩波書店)、お喋りなオームのおかげで商売繁盛の商人が、オームにまんまと逃げられるユーモアのある昔話『商人とオウム—ペルシャのおはなし』(ミーナ・ジャバアービン【文】/ブルース・ホワットリー【絵】/青山 南【訳】/光村教育図書)、『岩をたたくウサギ—サバンナのむかしがたり—』(よねやまひろこ【再話】/シリグ村の女たち【絵】/新日本出版社)が紹介された。

### ストーリー性の作品として、

子どもたちが飛び立つまでの親子の生活を描いた『かあさんふくろう』(イーディス・サッチャー・ハード【作】/クレメント・ハード【絵】/おびかゆうこ【訳】/偕成社)、野ウサギが一人でどのように生き抜いてきたかをリアルに描いた『ゆきのよあけ』(いまむらあしこ【文】/あべ弘士【絵】/童心社)、編んでも編んでも減らない毛糸で何を編んでいたか…。コルでコト賞の銀賞作『アナベルとふしぎなけいと』(マック・バーネット【文】/ジョン・クラッセン【絵】/なかがわ ちひろ【訳】/あすなる書房)図書館に住み本を書く知的なねずみが主人公の『としょかんねずみ』(ダニエル・カーク【作】/わたなべてつた【訳】/瑞雲社)、などを楽しく紹介。

### ノンフィクション 写真でなければ見られないと





いう本。雪がふってきた形の面白さ『おかしなゆき ふしぎなこおり』(片平孝【写真・文】/ポプラ社) ボルネオの熱帯林で住む野生の象から問題提起をする『ゾウの森とポテトチップス』(横塚真己人【写真・文】/そうえん社)、ピカソの伝記的写真絵本『ゲルニカーピカソ、故国への愛』(アラン・セール【文・図版構成】/松島京子【訳】/富山房インターナショナル)、出稼ぎに行ったお父さんが帰ってくる『チュンチュエ 中国のおしょうがつ』(ユイリーチョン【文】/チュンチョンリャン【絵】/中由美子【訳】/光村教育図書)。



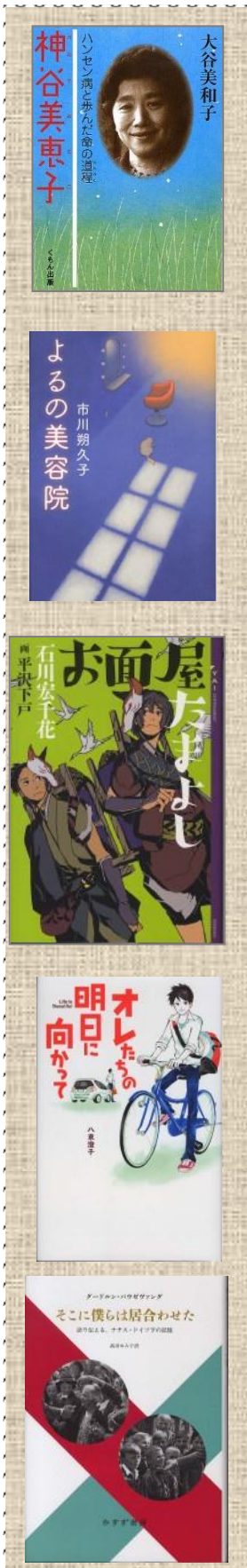
**読みもの** としては、  
昨年あたりから各社が幼年童話を活発に刊行、各社シリーズ作品を出す。『ともだちはわに』(村上しいこ【作】/田中六大【絵】/WAVE 出版)、わりに好評だった『ともだちのはじまり』(最上一平【文】/みやこしあきこ【絵】/ポプラ社)。

**異色作**、として紹介されたのが、冷蔵庫の中に牛が入っている『あけちゃダメ!』(小川英子【作】/奈知未佐子【絵】/新日本出版社)、人間が生きにくい現実、切ないような物悲しいような・・・、中・高学年向きの『お父さん、牛になる』(晴居慧星【作】/ささめやゆき【画】/福音館書店)、両者の愛情を感じさせる、おばあちゃんと孫の毒舌バトル『世界一かわいげのない孫だけど…』(荒井寛子【作】/勝田文【絵】/ポプラ社)。



**生き方にかかわる本** として、おじいちゃんが関西弁で孫にほら話をする読みやすい短編集『願いのかなうまがり角』(岡田淳【作】/田中六大【絵】/偕成社)、ハンセン病患者の治療に尽くした精神科医の苦悩を描いた『神谷美恵子—ハンセン病と歩んだ命の道程』(大谷美和子【著】/くもん出版)、生きるとは何ぞやをユーモアに描いた話『妖怪一家九十九さん』(富安陽子【作】/山村浩二【絵】/理論社)、その人の願いを叶えてくれる面づくり師の話『お面屋たまよし』(石川宏千花【著】/講談社)、寡黙症の子が、美容院で手伝いをする中で解放されていく『よるの美容院』(市川朔久子【著】/講談社)、若い身体と心が大きくなるときを、伸びやかな筆遣いで描いた『オレたちの明日に向かって』(八東澄子【著】/ポプラ社)、児童養護施設の子もたちとの関わりの中から子どもたちへ熱いメッセージを送る『チャーシューの





月』(村中季衣【作】/佐藤真紀子【絵】/小峰書店)、スペインの貧しい労働者がアメリカで移民として働き生きていくのに大切なものは『パンとバラ—ローザとジェイクの物語』(キャサリン・パターンソン【作】/岡本浜江【訳】/偕成社)、主人公は馬のジョーイ。ジョーイの目で戦争を描く『戦火の馬』(マイケル・モーパール【著】/佐藤見果夢【訳】/評論社)、過去の歴史から何を学ぶか、それは、そこに暮らしている市民も加害者になりうること、と問いかける『そこに僕らは居合わせた—語り伝える、ナチス・ドイツ下の記憶』(グードルン・パウゼヴァング【著】/高田ゆみ子【訳】/みすず書房)、広島に落ちた原爆で死んでいった身近な人の過酷なつらい体験を記憶し続けることの大切さを3つの短編で収めた『八月の光』(朽木祥【著】/偕成社)。

#### ◇ これからへ向けて

国民調査によると、中学生が公立図書館・学校図書館で本を借りているのはわずか20%以内にすぎない。こうした公的読書環境をどう保障していくかという課題に対して、更なる公立図書館、学校図書館の充実をめざしてより豊かにどれだけ実践面で裏付けていくかが問われているように思う。

文科省は、政権が代わって、教育再生実行会議というものを作り、「道徳教育」の徹底化を図り道徳教育を教科にする。ということは評価が伴うということで、道徳をどのように評価するのかということにも目を向けていかねばならない。

また東京都は、一度消えた「心のノート」を10億以上かけて再開。それが、どのようにいじめとつながるのか分からないが、配布する。

社会科の本について政治家が教育現場に口を出してきたというのを聞くが、選書基準に基づいてやっている現場に本のチェックが入ると、自主規制をひかれない空気を作っていくことになる。そうした向かい風の中で、私たちは自分たちの主体的な目というものを持って、読書の自由ということを何よりも大切にして、毅然とした姿勢を貫くことがこれからの時代いっそう必要なのではないか、と結ばれた。

終了後、講師の周りには参加者の輪が出来、紹介本を手に取り、借りていく人も多くいました。町田市立図書館には、本日紹介された本は全て揃っていますので、書架にないときはリクエストをして是非借りて読んでみて下さい。



## 臨時例会 & 懇親会

### 田井郁久雄さんを囲んで

2013年3月16日(土) 17:00~20:30

2月の定例会時、立川の図書館を考える会主催の講演会で、田井さんが岡山から出て来られるという話題から、町田にも来てもらいたいね、という話になった。前日1,2時間お話を伺い、夕食をご一緒にということで田井さんに連絡を取ると、その日福島まで行くので夕方5時過ぎなら何とか伺えるという返事をもらい、急ぎで臨時例会を開くことになった。いつもの「くいものや 熊」に、5時から1時間半程会議をしてそのあと流れて食事したいが部屋を使わせてくれないか相談したところ、快く承知して下さった。当日の出席者は、伊藤、玉目、手嶋、増山、丸岡、守谷、山口の7名。図書館の専門家に交じって女3人、田井さんを囲んでこじんまりとした良い会を持つことが出来た。熊の料理もとても美味しく、大サービスをして下さった。気ままに、正確を逸する形で報告をする。

田井さんは、長年岡山市の図書館司書を勤められ、現在は大学で教えられておられる。また毎月「風」(現在143号)を発行されていて、守谷さんを通して読ませていただいている。田井さんの今回の予定は、さいたま市の北図書館、福島県の白河市立図書館、町田の鶴川駅前図書館、そして立川での講演、その後山梨に行き県立図書館を見て帰るという強行日程とのことであった。

話は多岐にわたったが、まずは今回見て回られた図書館の印象から、話が発展した。

さいたま市の図書館については、年報を見ても委託の事が書かれておらず、市の職員のみ8名としか書いていないので、それが分かる資料がありますかと聞いても、その道の関係者だと分かると思ってももらえない事があるという。しかし、カウンターに立っている職員が全員TRCの制服を着ていることから明らかにカウンター委託していることはわかる、というように、実際に足を運んで図書館の全容をつかまれる。

田井さんは、資料面で徹底的に調べてから足を運び、図書館員と利用者の双方の目で、図書館を見て回る。今回も、福島県の市立図書館を見学される際、2週間の館内整理のあとの土曜日の開館だから、きっとごった返していて図書館員は忙しいだろうから、そっと見て回ろうと思う、と現場の空気をご自分の経験と重ね合わせて思いやり視察さ

れる。ところが、立地条件が良い場所にありながら土曜日には利用者も少なく、建物自体は斬新だが、そんなに広くもなく、使いやすくもなく、選書に難があり、資料にも魅力がなかったという印象で、かなり辛口の評価であった。(玉目)

お話を聞いていてよく口にされるのが、カウンターの重要性だ。最終的に満足してもらえる資料提供をできているかどうか、そのためには責任者はカウンターに立たねばならない。利用者を知らずして図書館員が務まるか、と言った気概が雑談の端々からも窺える。

図書館は長い年月の中で良い仕事を引き継いで作っていくことが大事で、民営化ではできない。直営の職員ならできることがたくさんある。そして正規職員は嘱託職員より多くの賃金をもらっているのだから、非正規の目から見てもちゃんとやっている見える仕事をしなければならない。

町田市の現状に話を向けると・・・、嘱託職員が増える中、正規職員の雇用形態をフレキシブルにして、仕事の明確化・役割分担をするという考えもある、直営だからこそ思う存分働くことが出来るのだ、とおっしゃる。こうした事を市民が言おうものなら職員から目の敵にされるところだが、図書館員として実績に裏付けされた仕事をしてきた人の言葉である。職員はどう受け止めるのだろう。

田井さんのお話を伺うたびに、そうだ、図書館を直営で発展させるためには、職員よ、頑張れ!(よく働いている人は、それ以上無理をしないでね!)と、はっぱをかけたくなる。翌日立川の講演会にて、少ない職員集団が、2倍ほども多い職員集団よりも仕事面で実績を挙げているデータを見て、セクションに合った専門性を重視した行政職員全体の改革が必要なのではと思った。(増山)

原っぱで遊ぼう 4月14日(日) 10:00~14:00  
(雨天は21日(日))

場所: 野津田公園ピクニック広場

参加費: 大人300円 こども100円

◇午前⇒関根秀樹さんと自然の素材で遊ぼう

◇午後⇒「わらべうた遊びと語り」であそぼう

主催: 野津田・雑木林の会 (問: 045-961-5045)

## 本の紹介 『図書館制度・経営論』

〔ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 5〕 (学文社)

編著者 手嶋孝典

山本宣親 (元図書館職員・富士市在住)

うーん、これはいい本だ！

本を愛する人なら本を手にした瞬間、そう感じることもあると思います。耳には届かないけれど「私を読んで！」と、本が発する「気」を出しています。一冊の本が世に出るまでには、実に多くの人たちの関わりがあつてのこと。著者は勿論、編集・出版・印刷・製本・流通・書店など実に多くの人たちが関わっています。出版の目的はひとりでも多くの人に読んでもらいたい！という思いからです。それを励みに利益が少なくても出版に関わっているのだと思います。そうした関係者の熱意が1冊の本に耳に聞こえない声を出させているに違いありません。

とりわけ著者の気持ちは大きく影響します。手にした瞬間「いい本だ！」と感じたのは、それら全てのパワーが伝わってきたからでしょう。カバーの手触り、レイアウトと色使い、本の大きさ、字体もいい。装丁は司書課程で用いられている大学のテキストというこれまでのイメージを一新するもの。これだけでもうページを開くのがワクワクする気持ちになります。

### 著者の人柄と実力が豊かに詰まっている！

司書課程のテキストは学生を対象としたもの、市民対象には縁遠い内容でした。しかし、本書は学生だけでなく、現場の図書館職員と図書館の発展のために活動している市民にはぜひとも読んでほしい「ベーシック」な良書です。

それは図書館に関する法規が体系的にまとめられ、さらにそれぞれ逐条解説が整理されていること。図書館運営の日常に即して具体的な留意点などが述べられており、その要点は実際に職務を

表紙には、「図書館の自由に関する誓言」・町田市立図書館のBM「さるびあ号」での仕事現場、裏表紙には、中央図書館やさるびあ図書館の写真がたくさん掲載されています。

本書を発行するにあたって手嶋さんはこう述べています。「執筆の依頼があつた時から、ニュートラルな教科書をつくるつもりはありませんでした。作る以上は、『市民の図書館』の理念を具現化した教科書にしたいと考えていました。『市民のための図書館』という視点に加え、『市民による図書館』という点も重視したつもりです。もちろん『言うは難く行うは難し』です。」  
司書養成の教科書だが、既に司書の人も、図書館をより良くしたいと願っている市民も、是非読んでみて下さい。  
(M<sup>4</sup>)



意識的に追求した著者であるからこそ。多様で念入りな気配りに感じ入ります。

今も館界の語り草となっているかつての町田市立中央図書館の複本蔵書に関し、NHKテレビが偏った放映をしたことに関連し「市民のための図書館」の立場からいち早く館長として有効な反論をした快挙に通じる流れで、執筆者の変わらぬ精神的な魂を感じます。

最大の特徴は、先に改正された関係法改正を取り込んだ最新の内容であり、これは他書を引き離しています。実は私、T社から「図書館経営論」を共著執筆したひとりです。既に15年経過し、記述内容や資料など古くなっています。でも版を改めず、刷りを重ねている現状に心を痛めています。本書は「司書課程」の講義関係者にも「目からウロコ」の書となるでしょう。



例会報告

# ひろば

2013. 2/20(木)18:00~20:00

中央図書館中集会室

16:30~17:30号印刷(伊・玉・増・丸・桃) 出

席者: 石井、伊藤、久保、齋藤、  
玉目、手嶋、野角、前田、増山、  
丸岡、三谷、目黒、桃沢

2013年度 第1回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

4月18日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算71回)

\*町田ゆかりの作家「貫井徳郎」増田佳恵

\*うぐいすの里(日本の昔話)佐々木令子

\*年とった女王さま(リチャード・ヒューズ 作)市川美奈

\*プルネッタ(イギリスの民話)丸岡和代

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

● 嘱託員組合から出て下さっていた齋藤さん・長谷川さんが、前田さん・目黒さんに交代。はじめに、新会員を迎えて各自自己紹介

● 冊子「としよかん」としよかん文庫友の会発行)購入部数について→今年度も今まで通り20部とする

● 第2回「まちだ子どもとしよかんまつり」について/3/28(木)~31(日)中央図書館ホール&4Fおはなし室で、木曾山崎図書館でも、28日・29日に開催。図書館と10のボランティア団体が実行委員会を組織して主催。各団体企画によるイベントの他、実行委員会企画として、明治学院大学サークルによるお話し会や、岩辺泰史氏(明治学院大学教授)を講師に招いて子どもを楽しく読書にいざなうアニメーション、また、中高生による語りなど様々なイベントを実施する。

● 広瀬恒子さん講演会「2012年度 新刊児童書からどの本よもうかな?」についての役割分担を決める。中央図書館児童担当に当日の紹介本リストを渡し、本を揃えてもらう。(p2-5参照)

● 次回定例会について/3月の第3水曜日の3/20が祝日のため、3/27(水)に変更

● 図書館から、2013年度~2017年度の図書館事業計画(案)が公表され、パブリックコメントを募るということで話し合いを持ちたいが、締切が3/7までということで、議題に載せることが出来ない。そのため各自資料に目を通して個人意見を提出することに。

● 図書館協議会報告/図書館発行の「二十歳に贈るこの一冊」に、なぜサッカーやフットサルの選手の図書紹介が載っているのか疑問?/明治学院大学文学部司書教諭課程が製作したDVD『多様な側面からとらえた図書館サービス』を、図書館の研修用にもらうよう中央図書館に依頼/図書館事業計画(案)について館長から内容説明があったが、意見募集日程の明確な提示はなかった町田市立陸上競技場の仮設メディアセンターに市が2億6千万円

を支出したのは違法だとして、一市民が石阪丈一市長に弁償を求めていた「住民監査請求」の結果は、「市の政策として一丸となって行ったことなので、監査委員の判断するところではない」と却下された。以下は読売新聞2013/2/19付の記事

## 「メディアセンター」建設 住民監査請求を却下

町田ゼルビアの本拠地・町田市立陸上競技場で、市が指定管理者に「仮設メディアセンター」を建設させたのは不当だなどとして、石阪丈一市長に対して弁償を求める住民監査請求があり、市監査委員は18日、「建設はゼルビアのJリーグ昇格支援を目的としたもので、不当とまでは言えない」などとして、請求を却下したと発表した。一略一市が「スポーツパークパートナーズまちだ」(SPM)にセンターを建設させ、建設費相当分を賃借料として分割し支払ったのは、入札手続きを踏まない脱法行為などとし、約2億6000万円を弁償するよう求めた。これに対し監査委員は、「(ゼルビアが昇格した)J2リーグの2012年シーズンに間に合わせるためには、公共工事として行うことは不可能だった」などとして、請求を退けた。

● 講演会に呼ばれて流山市立森の図書館に/5年前に指定管理化。市のアドバイスにより市民ボランティアがNPOを立ち上げて運営。しかし来年度は競争入札になり、新しく指定された団体が運営する結果に。講演会では指定管理化反対を主張してきた。

● 町田市の公園等の公共駐車場も指定管理化され有料化が進んでいる。利用者が少ない時は儲けがないので?閉鎖する等不便極まりない。そうしたことに多くの市民が関心を寄せないことが恐ろしい。

● 田井郁久雄さんとの交流会…(6p参照)

**あとがき** 寒い冬が一挙に去ると桜も一斉に咲き始め、自然同士のつながりに驚いている春です。花見にも行けずパソコンの前に座り込んでいる私にせめてもと、見事な満開の桜がメール添付で送られてきた。人間同士も繋がっていると良いことがたくさんありますね。(M4)